予算特別委員会

町民のしあわせのために

委員長　菅　原　隆　男
副委員長　奥　山　勝　吉

予算特別委員会とは
　当局から提案された予算が、町民の福祉向上のために有効に使われようとしているのか、審査をおこなうところです。
　一般会計ほか、６つの特別会計と３つの事業会計があります。
　構成委員は遠藤議長を除く全議員です。
　この度は３月14日と15日の２日間にわたり新年度予算について審査しました。

歳入
（町の収入）

質疑

一般会計

地方交付税の動向

小形委員　人口減少に伴う交付税減額見込みに対する対策は。

当局　人口減少と公債費増により普通交付税はほぼ横ばいで推移。少子高齢化社会の中、財政運営に与える影響は大きいが、有利な財源を活用し、地方創生プロジェクトを展開できるよう計画を作る。

どうする、ソフト小村

関委員　白鷹ソフト小村の使用料が減額になっている。今後の在り方を問う。

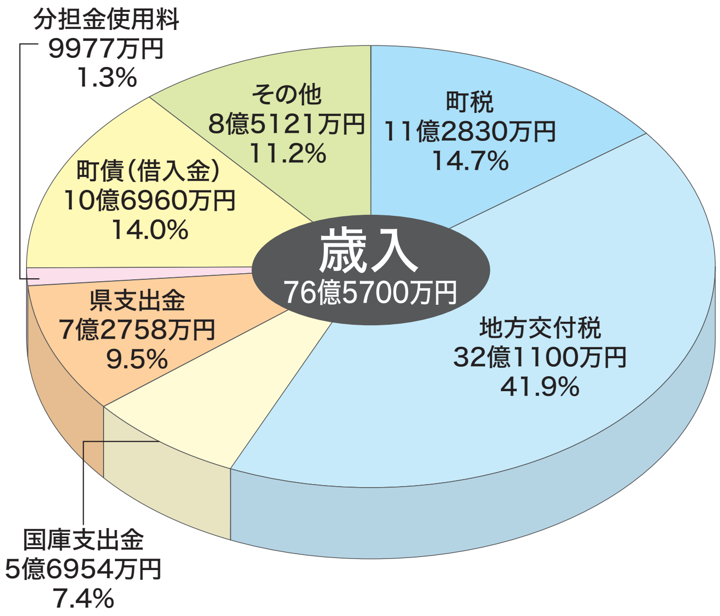
当局　当初は、研究施設などＩＴ化等を含めた企業でやってきた。情報のスピード化や経費の問題等もあり、空き家も出ている。できるだけ早い時期に条例等改正しながら使い勝手の良い施設にできるよう対応したい。

ふるさと応援寄附金増額見込みの根拠は

今野委員　毎年増加しているふるさと応援寄附金は、地方創生や地域づくりなど経済効果としても大いに期待できるが、増額を見込んだ根拠は何か。

当局　27年度の実績を勘案し、28年度は特産品の拡充、あるいはＰＲサイトへの広告の掲載等、ＰＲの強化をはかる予定で、これらを見込んでの増額である。

税収増といえるのか

関委員　個人町民税の予算額は増だが、税収としてはどうか。

当局　町民税だけを見ると年度ごとに変動はある。景気などにも左右されるが、これまでの実績、予算の状況を踏まえて、結果的に増額予算を組ませていただいた。